

[中国]

2015年 日中経済協力会議－於遼寧について

富山県大連事務所長 高山 久

7月16日、「2015年日中経済協力会議－於遼寧」が遼寧友誼賓館で行われた。中国側からは李希(りき) 中国共産党遼寧省委員会書記、陳求発(ちんきゅうはつ) 遼寧省人民政府省長をはじめ434名が、日本側からは日中東北開発協会会長(新日鐵住金(株)会長) 宗岡正二氏、在瀋陽日本国総領事大沢勉氏、経済産業省通商政策局通商交渉官安藤晴彦氏及び貿易機構、企業、学校、自治体代表者ら合わせて169名が出席した。富山県からは寺林敏副知事が出席した。

また、前日には中国東北3省1自治区政府代表团と日中東北開発協会VIP、日本の地方自治体等トップの会見が行われ、本年4月に富山県で開催された「富山県ものづくり総合見本市2015」に遼寧省から60社以上の企業が参加したことなどが李希書記から紹介された。



1 日中経済協力会議とは

本会議は日中東北開発協会、日中経済協会が中国東北3省1自治区と日本において、日本及び中国の中央政府、東北地方等地方政府(自治体)、企業、経済団体、研究機関等の日中関係者が一堂に会し、中国東北地方との経済協力のあり方について協議し、具体的な協力案件の醸成を目的として開催されている。

第1回は2000年6月に今回と同じく遼寧省で開催されたが、私はその際に富山県と遼寧省の友好交流事業の一環として、交換職員として遼寧省人民政府に派遣されており膨大な量の通訳用原稿・資料の翻訳をしたことが鮮明に記憶に残っている。昨年、開催されなかったため、今回が14回目となる。

とりわけ中国東北3省は、2012年12月に遼寧省、吉林省、黒竜江省を縦断する大連－ハルビン間の高速鉄道が開通して以来、一体的な開発が進みつつあり、またこれらの開発は中国東北地方にとどまらず、環日本海経済圏における関係諸国との経済連携強化を視野に入れたものとなっている。

今回の会議は、日中東北開発協会、日中経済協会、中国遼寧省、黒龍江省、吉林省、内モンゴル自治区人民政府の主催で、「新機軸の協力と輝きの再鑄」をテーマとし、日中ハイレベル論壇と分科会という形式で意見交換と討論が行われた。

2 ハイレベル論壇

日中両国の東北地方政府首脳(各県副知事、各省副省長等)が、関係地域等の実情を踏まえた日中間での双方向での経済協力を推進させるため、各地域の経済発展計画や政策、経済交流拡大のための方策などについて発表および意見交換を行い、具体的プロジェクトの醸成に資するもの。

最近、中国政府は周辺国との交通インフラ、運輸・物流、貿易等を拡張するための「一帯一路」戦略を発表し、一方日本では従来から日本海横断航路等の貿易ルートの整備が進められている。

今回は、日中間の運輸・物流、観光に関する協力等について議論が行われた。

この場において寺林敏富山県副知事が、県の観光紹介、中国東北地域との物流・観光、県の産業紹介、中国東北地域との経済交流、遼寧省との友好交流等について発表を行った。

とりわけ、中国進出県内企業約100社のうち約3割が遼寧省を中心とした東北地域に立地し、富山と大連を結ぶ定期コンテナ航路や定期航空便が就航していることを紹介。「今後とも富山と中国の企業のビジネスがより進化するよう取り組む」

との意思表示があったほか、遼寧省と取り組む共同環境調査や、伊勢志摩サミットに先立ち開催される環境相会合が来年度、富山で開催されることに触れ、「国際的な環境保全のさらなる推進に協力して取り組んでいく」と述べた。



3 分科会

次の4つの分野における具体的プロジェクトの醸成を目的に、関連産業・企業等の現状、動向等について発表と情報交換が行われ、その後各会場において日中企業間での交流が行われた。

①循環経済・省エネ環境

アジアの先導的役割を果たす日中両国は、廃棄物の適正処理と3R推進による健全な循環経済促進による資源の効率利用や環境負荷低減が求められている。本分科会では、こうした循環経済構築に係る両国の取り組み状況、最新政策・法制度、技術等に関する情報交流を重点とし、省エネ・環境分野におけるマッチングを視野に入れつつ、日本側からはビジネスベースでの問題解決を目指した提案、中国側からは具体的ニーズや日本企業への期待等を相互に紹介した。

②シルバー産業・関連サービス

中国でも、人口高齢化に伴い、衣食住、健康、金融、保険、レジャー及び医療・介護等の幅広い分野で、高齢者向けのサービス及び機器・用品の市場が拡大すると見込まれる。本産業分野での先行者である日本が持つ商品開発、施設運営、人材育成等の経験・技術への期待が高まっ

ており、新たなビジネスチャンスについて日中両国の関係者により議論された。

③ハイエンド設備製造業（生産自動化のためのロボット等を含む）

産業競争力の全面的強化のためのインテリジェント・ロボット、エネルギープラント、海洋プラント、集積回路設備、複合材料、新素材、光電子など新興産業群の育成方針を中国政府は打ち出している。本分科会では今後のハイエンド設備製造業に関する国際分業、産業チェーン構築等の日中間協力について議論された。

④農業・食品加工・食品加工機械

中国東北地方は中国屈指の食糧生産基地で、ここ数年の食糧生産高は新記録を更新し続けている。現在、当地では現代農業の発展のために国からの農業予算措置の拡大、農産物の品質や生産効率の向上、食品加工業の発展、大規模灌漑、食糧貯蔵、物流施設の建設強化等を推進しており、日本の関連技術や設備等の導入についての期待も大きい。本分科会では、農業・食品加工・食品加工機械等の分野における日中間協力を推進するための意見交換が行われた。

4 会議を振り返って

1) ハイレベル論壇では、会議に参加した日本の企業、地方自治体、経済団体、研究機関等の関係者は、中国東北3省1自治区の経済概況、一帯一路構想、日本海横断航路等を含めた交通インフラの状況、図們江地域協力開発計画や日中韓循環型経済モデル基地などの推奨プロジェクトや投資環境、今後の日本との協力分野とその意向、提案等を理解することができたと考えられる。これらの情報は、日本側企業が中国東北3省1自治区への進出を検討する上での参考情報となり、今後のビジネス展開の促進が見込まれる。

また、会議に参加した日中関係者間で今後も経済交流を継続拡大していく重要性が再認識されたことで、日中間交流の更なる活発化の一助にもなったと考えられる。

2) 分科会では、双方の関心の高い分野である循環経済、シルバー産業、ハイエンド設備製造業、農業・食品加工の各分野について、中国関連事業を行っている日本企業の専門家などを報告者に迎え、ビジネス機会の創出を目指した対話・交流を行い、今後の各分野における日中間協力を促進した。

特に、ハイエンド設備製造業分科会においては、日中双方から自動化事例とロボットの活用事例が紹介され、その後の活発な質疑応答からも中国の人件費高騰・少子化による人材確保難への対応、「新常态」における産業構造転換への対応意欲の高さが垣間見られた。

また、シルバー産業・関連サービス業分科会においては、報告者は介護・医療機器メーカーと介護事業者の2者であったが、前者への高い関心以上に、介護保険制度が未整備の状況下で急激に進む高齢化社会の進展とあいまって介護システムや運営ノウハウに対する日本企業への強い期待感が後者の報告に対する質疑応答から感じ取られた。とりわけ、中国側が富裕層ビジネスとして高級化・大規模化・リゾート開発を志向しているのに対し、日本側は高度な介護・リハビリなどソフト面の実践を志向しており、ビジネスの方向性が一致していない現状が浮き彫りとなった。

3) 日中の企業、各地方自治体、関係団体間の交流により、今後の商談や各種協力プロジェクトの醸成が図られたのみならず、交流会等において更に突っ込んだ意見交換や関連プロジェクトに関する商談が行われるなど今後のビジネス展開を進めるうえで、有意義な交流がなされていた。

また、中国側の各省・自治区からの参加者は対外経済貿易担当の実務者が多かったため、日本の各経済団体、企業、地方自治体の関係者との交流により新たな知遇を得たことは、今後彼らが日本でセミナー開催等の諸活動を行う際の日本での協力窓口を得たことにもなることから、

今後の日本と中国東北3省1自治区との相互交流が活発化していくものと考えられる。

当事務所としても、これまでの日本企業の中国進出支援という実績のみに拘泥することなく、将来における双方のさらなる交流強化、ビジネス発展によりWin-Winの関係を構築できるよう取り組んでいきたい。